

# その名大口

誇りと愛着のある学校

H28年6月16日

「ひとつ拾えば、ひとつだけきれいになる」

6/19日曜日が、文化祭です。梅雨に入っていますが雨が降らないことを祈っています。今年度も、伊佐市報を使って全戸に文化祭の案内をします。たくさんの中学生・小学生・地域の方が見にくると思います。「おもてなしの心」で、応対してください。生徒会を中心に、文化部を中心とする部活動・クラス、有志それぞれにしっかり準備し、盛り上げてください。



左の写真は、国語の本田先生と英語の和田先生の研究授業の様子。

右下の写真は、校内授業公開期間（5/30～6/10）の様子。全職員



全生徒の授業を見学しました。

今日は、「掃除について」話をします。文化祭、校内をきれいにして客を迎えることが「おもてなし」の第一歩だからです。そして、掃除のもつ意味について考



え、掃除をもっとすすんでやってほしいと願っているからです。

まず、鍵山秀三郎先生について話をします。先生は現在83歳で、イエローハットの創業者です。現在NPO法人「日本を美しくする会」の相談役になっています。「トイレ掃除に学ぶ会」という運動が全国で展開されています。その運動を始めた人です。私の最も尊敬する人の一人です。先生の本や実践に何度も励まされ、自分を律してきました。それでも、先生の言葉や実践をつい忘れてしまいます。「唾面自乾」（たとえ顔に唾を吐きかけられても拭かずに、自然に乾くまで耐えよという教え）という言葉



も先生の本で知りました。やくざに監禁されたり、ののしられ唾を吐きつけられた経験もあるそうです。その度に「唾面自乾」を心に

本校卒業生の教育実習期間でもありました。庄屋佑大先生（地歴：久留米大学）、中村勇太先生（数学：電気通信大学）、上原千怜先生（体育：福岡大学）。お二人にメッセージをもらいました。「私は大学での出会いによって自分の世界

が広がりました。大学にはさまざまな人が集まります。高校時代からスマホアプリを自作した人、ロボットを設計した人もおり、そうした人と関わる中で自分の知らないものに多く出会うことができました。」（中村先生） 「第一志望に落ちて浪人しようと思いましたが、周りに説得され福大に進学しました。バレーボールを続けたかったのですがすぐにバレーボール部に入りました。1年の時はもの凄く大変でしたが、いい仲間や先輩・指導者などたくさんの人に巡り会えて、技術だけでなく内面的なことから磨かれました。教員になるという将来のことも決まり、今となっては福岡大学に進学して本当に良かったと思っています」（上原先生）

唱え、耐えてきたといひます。1962年カー用品を自転車で行商する会社を始め、その後苦節を経て東証一部に上場し、「イエローハット」に社名を変えます。創業以来、ずっと続けてきたことが「掃除」です。荒くれた社員が多く、社内や倉庫も煩雑に散らかっておりトイレも汚い。そこで社風を変えようと、一人トイレ掃除をし社内の掃除を実践します。そんなことをして何になると、みんなバカにしたといひます。社長なので社員に命令することもできたと思いますが、掃除の大切さに気づき自発的にやらなければ意味はないと、ひたすら一人実践したといひます。12年目になった頃、社員の何人かがトイレ掃除や洗車をするようになり、さらにそこから10年目には、ほとんどの社員が朝早く来て洗車し掃除をするようになり、そこからさらに10年、「あの会社は掃除をする良い会社だ」と評判になったそうです。「10年偉大なり、20年畏るべし、30年にして歴史なる」という中国の言葉どおりの実践です。誰も見向きもせず、バカにされ、それでも実践し続ける。世の中には本当に志の高い立派な人がいるものです。私は鍵山先生の言葉のいくつかを心に留め、問いかけています。



全校生徒による美化活動(6/1)

「トイレ掃除に学ぶ会」は、全国で展開され世界にも広がっています。私もこの会に参加させてもらったことがあります。

トイレ掃除をすることで、まず①「謙虚な人になれる」というのです。掃除をする時上を向いて掃除する人はいません。掃除の姿そのものが謙虚な姿勢であり、掃除を懸命にやる人に傲慢な人はいません。確かに一流の人はみんな謙虚です。二つ目は、②「気づく人になれる」ということです。この「気づき」こそがすべてだと私も思います。掃除をするといろんなことに気づきます。三つ目は③「感動の心を育む」ことができるといひます。きれいになったことに感動し、一生懸命に取り組む姿勢に感動する。そうすると④「感謝の心」が芽生えます。人は幸せだから感謝するのではなく、感謝するから幸せになれるのです。感謝する人には人が集まります。最後に⑤「心を磨く」ことができるといひます。特に、人の嫌がるトイレをきれいにすると心も美しくなるのです。

鍵山先生は、「ひとつ拾えば、ひとつだけきれいになる」といひています。自戒をこめていひますが、自分一人が取り組んでもなんにもならないと考えてはいけません。大切なことは一歩踏み出す勇気・実践です。「足元のゴミひとつ拾えぬほどの人間に何ができましようか」といひ先生の言葉は痛烈です。

具体的な掃除を通して、謙虚で、周りの変化に気づき、気配り・心配りのできる、そして感動・感謝の人生を送りたいものです。掃除は心を磨くことです。みなさんも掃除道を究めてください。



伊佐市出身でカンボジアで医療活動に従事している前原とよみさんに、6/2(木)本校生徒に講演をしてもらいました。事前の生徒の質問に答える形で話は進み、最後に常に問いかけていることとして、「Do or don't」(やるのか、やらないのか)そして「人生、塞翁が馬」といひことを話されました。

〈生徒の感想〉

一番気になっていた進路のことなど、いろいろ話をしてくださってとてもためになりました。私も中学時代いじめられていました。それからは心を誰にも開くことができず、毎日明日はどうやったら目をつけられないようになるだろうかと…などと考え、勉強どころではありませんでした。成績も低いままなかなか伸びず、いろいろ不安定でした。でも、高校に入ってがらりと環境が変わり、勉強もしやすくなりました。中学校の時、私は自分に弱かったのです。いじめを理由にして、勉強をサボっていました。「Do or don't」。中学校時代の私は「don't」を選んでいました。でも今の私は「do」を選んでいひことに気づくことができました。〈1年女子〉